

平成27年度行政事業レビューシート(

厚生労働省

)

平成27年度行政事業レビューシート（厚生労働省）									
事業名	新型インフルエンザ対策費				担当部局庁	健康局		作成責任者	
事業開始年度	平成20年度	事業終了 （予定）年度	終了予定なし		担当課室	結核感染症課		結核感染症課 井上 肇	
会計区分	一般会計				政策・施策名	I－5－1 感染症の発生・まん延の防止を図ること			
根拠法令 （具体的な 条項も記載）	新型インフルエンザ等対策特別措置法				関係する計画、 通知等	・「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」（平成25年6月閣議決定） ・「新型インフルエンザ等対策ガイドライン」（平成25年6月：新型インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係省庁対策会議）			
主要政策・施策					主要経費	社会保障			
事業の目的 （目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	「新型インフルエンザ対策行動計画」に基づき、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄を進めている。 また、パンデミック発生に備え、プレパンデミックワクチン原液の購入、及び国が備蓄しているプレパンデミックワクチン原液について、特に必要と認められる水際対策の従事者等に、速やかにワクチン接種が行えるようその一部製剤化したワクチンの備蓄対策を講じる。								
事業概要 （5行程度以内。 別添可）	【医薬品等保管料】 ・国が備蓄している抗インフルエンザウイルス薬及びプレパンデミックワクチンの保管に関する経費。 【医薬品買上費】 ・最新の医学的知見、諸外国における抗インフルエンザウイルス薬の備蓄状況を踏まえて、備蓄を進めている。 ・新型インフルエンザ発生に備え、最低限の社会機能を維持するために必要なプレパンデミックワクチンの備蓄を進めている。 【医薬品製剤化等業務庁費】 ・パンデミック発生に備え、国が備蓄しているプレパンデミックワクチン原液について、特に必要と認められる水際対策の従事者等に、速やかにワクチン接種が行えるようその一部製剤化したワクチンの備蓄対策等を講じる。 ・有効期限の切れとなったプレパンデミックワクチンを廃棄するための経費。								
実施方法	直接実施								
予算額・ 執行額 （単位：百万円）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	94	106	85	86	10,627		
		補正予算	6,345	6,351	6,001	－			
		前年度から繰越し	9,066	16,950	6,345	5,995			
		翌年度へ繰越し	▲ 16,950	▲ 6,345	▲ 5,995	－			
		予備費等	13,443	－	－	－			
		計	11,998	17,062	6,436	6,081	10,627		
	執行額		8,149	11,359	5,278				
	執行率（％）		68%	67%	82%				
成果目標及び成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標		成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	国民の45％分に相当する抗インフルエンザウイルス薬を備蓄する。		備蓄数	成果実績	万人分	6,322	6,737	6,838	
				目標値	万人分	5,861	5,700	5,700	5,700
				達成度	％	107.9%	118.2%	120%	
成果目標及び成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標		成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	インフルエンザワクチン原液を各年度の備蓄方針に従い、必要人数分を備蓄する。		万人分	成果実績	万人分	1,000	1,000	1,000	
				目標値	万人分	1,000	1,000	1,000	1,000
				達成度	％	100%	100%	100%	
活動指標及び活動実績 （アウトプット）	活動指標				単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	抗インフルエンザウイルス薬の保管			活動実績	万人分	3,300	3,530	3,530	
				当初見込み	万人分	3,300	3,530	3,530	3,530
活動指標及び活動実績 （アウトプット）	活動指標				単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	インフルエンザワクチン原液の保管			活動実績	万人分	1,000	1,000	1,000	
				当初見込み	万人分	1,000	1,000	1,000	1,000
単位当たり コスト	算出根拠				単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	単位当たりコスト＝X／Y			単位当たり コスト	百万円	190	251	116	134
	X：「新型インフルエンザ対策費に要した額」 Y：「抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄数」			計算式	X／Y	8,149百万円／ 43百万人分	11,359百万円／ 45.3百万人分	5,278百万円／ 45.3百万人分	6,081百万円／ 45.3百万人分

平成27・28年度予算内取（単位：百万円）	費 目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由		
	医薬品等保管料	84	68	医薬品等保管料・・・ワクチン量の減 医薬品製剤化等業務庁費・・・「新しい日本のための優先課題推進枠」716百万円 医薬品買上費・・・「新しい日本のための優先課題推進枠」9,343百万円 疾病予防対策事業費補助金・・・「新しい日本のための優先課題推進枠」500百万円		
	医薬品製剤化等業務庁費	2	716			
	医薬品買上費	-	9,343			
	疾病予防対策事業費等補助金	-	500			
	計	86	10,627			
事業所管部局による点検・改善						
国費投入の必要性	項 目			評 価	評価に関する説明	
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	新型インフルエンザ対策のために必要な抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄について、国民のニーズがあり、国費を投入して行うべき事業である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	新型インフルエンザ対策を国家の危機管理に関わる重要な課題と位置づけ、国の関与のもと、適切に実施すべき事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	新型インフルエンザ対策を国家の危機管理に関わる重要な課題であり、優先度の高い事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			×	製造企業が限定されている等のため随意契約としている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	価格交渉により単価の見直しを行っている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄するために真に必要な費目としている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）			○	抗インフル薬における備蓄割合の変更等のため	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか			○	インフルエンザワクチン保管料コストを減らすため、有効期限切れのワクチンは速やかに廃棄している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか			○	新型インフルエンザ対策行動計画に基づく備蓄目標を達成している。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	新型インフルエンザ対策行動計画に基づく備蓄目標を達成している。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			-	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）			-		
	所管府省・部局名		事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	抗インフルエンザウイルス薬の備蓄等は新型インフルエンザ等対策に非常に有用であることから、引き続き目標備蓄数を維持する必要がある。 なお、インフルエンザ株によっては、現在備蓄に占める割合が高いタミフルに耐性を示す場合もあることから、リレンザの備蓄割合を増やしたため、備蓄量が目標を上回っている。				
	改善の方向性	引き続き、適正な事業の実施に努める。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	点検結果も妥当であり、適正規模の備蓄数を維持するために、引き続き、必要な予算額を確保するとともに、適正な執行を図ること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	引き続き、必要な予算額を確保するとともに、適正な執行を行う。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	130	平成23年度	110	平成24年度	86	
平成25年度	97	平成26年度	107			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

厚生労働省
75百万円

【事業内容】
・抗インフルエンザウイルス薬、
ワクチンを備蓄



【随意契約】
A. 民間会社(7社)
75百万円

国が備蓄している抗イン
フルエンザウイルス薬「タ
ミフル」、「リレンザ」及び
ワクチンを保管

厚生労働省
5,200百万円(繰越分)

【事業内容】
・抗インフルエンザウイルス薬の購入
・プレバンデミックワクチンの原液買上・製剤化



【随意契約】
B. 民間会社
(5社)
5,200百万円

プレバンデミックワクチンの原
液買上・製剤化

厚生労働省
5百万円(補正分)

【事業内容】
・有効期限が切れたプレ
バンデミックワクチン(原
液・製剤)廃棄



【随意契約】
C. 民間会社
(2社)
5百万円

使用期限が切れ
たプレバンデミッ
クワクチン(原液・
製剤)の廃棄

費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.(株)A社			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
医薬品等保管料	抗インフルエンザウイルス薬保管料	32			
計		32	計		0
B.(一財)A社			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
医薬品買上	プレパンデミックワクチンの原液買上・製剤化	1,752			
医薬品製剤化	プレパンデミックワクチンの原液買上・製剤化	116			
計		1,868	計		0
C.野村興産(株)			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
役務	使用期限が切れたプレパンデミックワクチン(製剤化)の廃棄	3			
計		3	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)A社	抗インフルエンザウイルス薬の保管	32	随意契約	—
2	(株)B社	抗インフルエンザウイルス薬の保管	31	随意契約	—
3	(株)D社	ワクチン・抗毒素の保管	4	随意契約	—
4	(株)E社	ワクチン・抗毒素の保管	4	随意契約	—
5	(株)F社	ワクチン・抗毒素の保管	3	随意契約	—
6	(株)G社	ワクチン・抗毒素の保管	0.5	随意契約	—
7	(株)H社	ワクチン・抗毒素の保管	0.3	随意契約	—

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)A社	プレパндеミックワクチンの原液買上・製剤化	1,868	随意契約	—
2	B(株)	プレパндеミックワクチンの原液買上・製剤化	1,184	随意契約	—
3	C(株)	プレパндеミックワクチンの原液買上・製剤化	1,081	随意契約	—
4	(一財)D社	プレパндеミックワクチンの原液買上・製剤化	716	随意契約	—
5	E(株)	プレパндеミックワクチンの原液買上・製剤化	350	随意契約	—

C

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	野村興産(株)	使用期限が切れたプレパндеミックワクチン(製剤化)の廃棄	3	随意契約	—
2	日本通運(株)	使用期限が切れたプレパндеミックワクチン(製剤化)の運搬	1	随意契約	—